

飯塚病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

【飯塚病院の基本情報】

- 医療機関名：飯塚病院
- 開設主体：株式会社麻生 代表取締役社長 麻生 巖
- 所在地：福岡県飯塚市芳雄町3番83号

- 許可病床数：1,048床（2017年9月1日時点）
（病床の種別）一般978床、精神70床
（病床機能別※）
高度急性期124床、急性期808床、回復期0床、慢性期46床、精神70床

- 稼働病床数：980床（2017年9月1日時点の届出病床数）
（病床の種別）一般924床、精神56床
（病床機能別※）
高度急性期116床、急性期762床、回復期0床、慢性期46床、精神56床

- ※ 病床機能別病床数については、施設基準を基に下記の通り分類した。
 - ✓ 高度急性期：救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、総合周産期特定集中治療室管理料（母体・胎児集中治療室管理料、新生児集中治療室管理料）、新生児治療回復室入院医療管理料
 - ✓ 急性期：小児入院医療管理料、緩和ケア病棟入院料、一般病棟入院基本料（7対1入院基本料）
 - ✓ 慢性期：障害者施設等入院基本料

- 診療科目：42科・部（2017年9月1日現在。下記、内訳）
総合診療科、呼吸器内科、呼吸器腫瘍内科、循環器内科、心不全ケア科、消化器内科、肝臓内科、神経内科、腎臓内科、血液内科、内分泌・糖尿病内科、膠原病・リウマチ内科、心療内科、小児科、リエゾン精神科、漢方診療科、外科、消化管・内視鏡外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、呼吸器腫瘍外科、整形外科、産婦人科、心臓血管外科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、小児外科、形成外科、歯科口腔外科、麻酔科、ペインクリニック科、救急部、集中治療部、緩和ケア科、画像診療科、放射線治療科、臨床腫瘍科、リハビリテーション科、病理科

- 職員数：2,424名（2017年9月1日現在）
 - ✓ 医師 303名
 - ✓ 看護職員 1,090名
 - ✓ 専門職 523名
 - ✓ 事務職員 508名

【 1. 現状と課題】

① 構想区域の現状（福岡県地域医療構想より要点抜粋）

- 総人口はすでに減少局面に入っており、65 歳以上人口は平成32（2020）年がピーク、75 歳以上人口は平成42（2030）年がピークと予想されている。
- 人口10 万人あたりの一般・療養病床数は全国平均を上回っている。また、医師の数は総数で全国平均を上回っているが、主な診療科別では麻酔科のみ全国平均を下回っている。
- 自己完結率は救急で96.5%、くも膜下出血85.1%、急性心筋梗塞100%、悪性腫瘍82.3%、小児の入院体制88.5%と非常に高く、全般的に充実した診療が行われている。
- 必要病床数の推計値と現状の病床数との比較では回復期が104 床不足している。また、高度急性期も176床不足しているが、高度急性期と急性期の合計値では685床過剰である。

② 構想区域の課題（福岡県地域医療構想より要点抜粋）

- 不足する回復期病床については、医療機関の自主的な取組を基本としつつ、急性期又は慢性期病床からの機能転換により確保を図っていく（地域医療介護総合確保基金による支援を実施）。
- 飯塚区域の実情に応じた在宅医療等の提供体制の構築を進める。
- 救急医療、小児・周産期医療、5 疾病にかかる医療提供体制については充実しており、引き続き、提供体制の維持を図るとともに、医療機関間の連携の強化など質の向上に努めていく。
- 今後増加が見込まれる認知症高齢者について、関係者、関係機関の連携等適切に対応していく。

③ 自施設の現状（2016年1月～12月）

現時点の患者数等の状況は以下の通りである。

- 外来患者数： 462,729人（1,896人/日）
- 入院患者数： 327,337人（894人/日）
- 救命救急センター受診者数：34,684人
- 手術件数（手術室内）：5,865件
- 紹介率：69.1%
- 平均在院日数（※）：14.4日

※医科点数表の解釈の施設基準に沿って計算した社会保険事務局への届出ベース

④ 自施設の課題

- A) 回復期機能を有する病院との連携
急性期を脱したものの継続的治療、リハビリ等が必要な患者の転院先の確保とスムーズな転院調整
- B) 施設・設備面の課題
地域で求められる高度急性期、急性期機能の維持のために、集中治療室、手術室、画像診断機器、放射線治療器などの維持・更新が必要。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 専門医療（救命救急医療、がん、脳血管疾患、循環器疾患、周産期医療、小児医療、総合診療など）の提供体制、およびそのための中央診療・診断機能を維持・拡充し、飯塚区域における高度急性期、急性期医療を担うこと。
- 上記に加え、筑豊地域の住民ができるだけ住まいの近くで治療を受けられるよう、直方・鞍手区域や田川区域で完結できない高度急性期、急性期治療を担う。

② 今後持つべき病床機能

- 高度急性期・急性期の機能を担う病床の維持・充足
（下記、診療報酬上の施設基準の例）
 - ✓ 救命救急入院料
 - ✓ 特定集中治療室管理料
 - ✓ ハイケアユニット入院医療管理料
 - ✓ 総合周産期特定集中治療室管理料
 - － 母体・胎児集中治療室管理料
 - － 新生児集中治療室管理料
 - ✓ 新生児治療回復室入院医療管理料
 - ✓ 小児入院医療管理料
 - ✓ 緩和ケア病棟入院料
 - ✓ 一般病棟入院基本料（7対1入院基本料）
- 高度急性期・急性期以外の機能であって、筑豊地域において当院が担うべき機能の維持
（下記、診療報酬上の施設基準の例）
 - ✓ 障害者施設等入院基本料
 - ✓ 精神病棟入院基本料

③ その他見直すべき点

（特記事項なし）

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在（※） （2016年度病床機能報告）		将来（※） （2025年度）
高度急性期	123床	→	123床
急性期	809床		809床
回復期	0床		0床
慢性期	46床		46床
（合計）	978床		978床

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	（参考） 関連施策等
2017年度	2025年度に向けた 飯塚病院中長期計画の策定	策定完了と院内周知	<div>集中的な検討を促進 2年間程度で</div> <div>第7期 介護保険 事業計画</div> <div>第8期 介護保険 事業計画</div> <div>第7次医療計画</div>
2018年度	筑豊地域において急性期機能や回復期機能を担う医療機関との連携・役割分担の推進	連携・役割分担の実現	
2019～ 2020年度	同上	同上	
2021～ 2023年度	同上	同上	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	見直しの予定なし		
新設			
廃止			
変更・統合			
		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

(明確な目標値は設定されていないため、参考値として直近実績を記入した)

- ・ 病床稼働率(対稼働病床)：89.3%(精神科除く94.3%) (2016年1月～12月)
- ・ 年間手術件数：5,865件 (2016年1月～12月)
- ・ 紹介率：70.3% (2016年4月～2017年3月)
- ・ 逆紹介率96.0% (2016年4月～2017年3月)

【4. その他】

(自由記載)

本計画は、2017年9月時点で想定される前提条件を基に作成したものです。今後、診療報酬の改定や、当院の診療体制(医師数など)の変動、地域その他医療機関の機能や規模の変動など、現時点で予測できない要因により、計画の見直しが必要になることがあります。